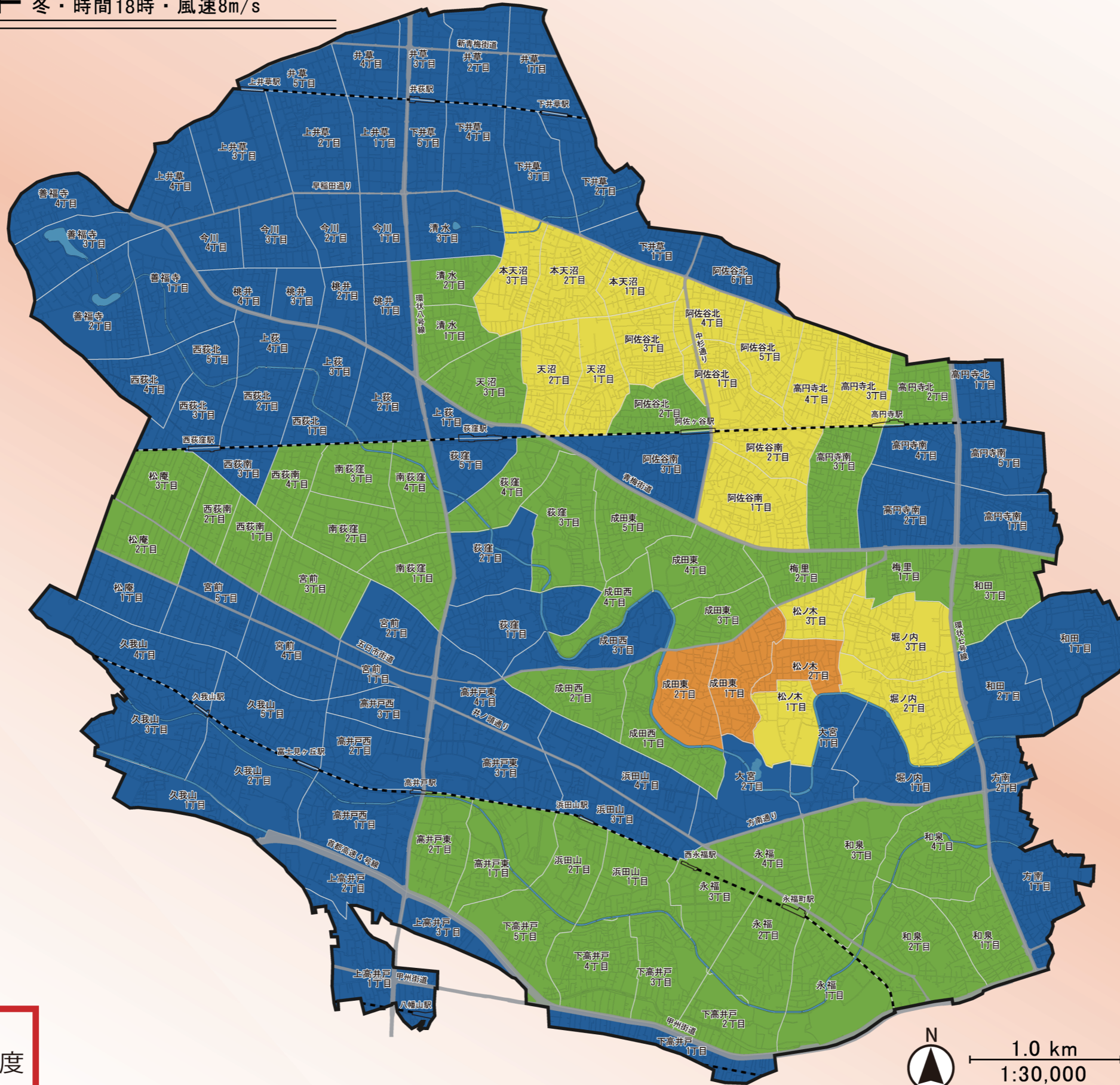


現況^(※1)における 固定通信不通率

想定地震：東京湾北部地震 (M7.3)
冬・時間18時・風速8m/s

地震被害シミュレーションは、地震の規模や震源地、発生時刻や風速など、一定の条件を設定して行った想定の一つです。

実際の首都直下地震の被害は、今回の想定結果と比べて小さい場合もあれば、大きい場合もあります。この結果だけにとらわれず、大規模な地震に備えていくことが大切です。



現況被害想定

地震が発生したら…

区内の固定通信不通率は、

21.2%

揺れが強く、建物被害や焼失被害の多い地域は、固定通信不通率も高くなるというシミュレーション結果となっています。

※通信会社が行う発信制限や、電話の集中により発生する輻輳については考慮しておりません。

凡例：町丁目別固定通信不通率



今回のシミュレーションについても、平成 28 年度の調査同様、杉並区全体を 50m メッシュ (50m×50m) 単位で区割りして被害想定を行ったうえで、その結果を町丁目単位で集計し評価することにより、被害想定結果をより身近なイメージとして分かりやすくお示ししていただけるように示しています。

※(参考：復旧目途)^(※2)
東京都被害想定：2 週間程度
熊本地震：10 日程度

(※1) 現況：平成 28 年度の地震被害シミュレーション（建物被害編）の結果及び平成 28・29 年度のライフライン設備等のデータをもとにシミュレーションしています。

(※2) 復旧目途については、「首都直下地震による東京の被害想定（平成 24 年 4 月）」、「平成 28 年熊本地震 熊本市 震災記録誌（平成 30 年 3 月）」を参照。

